



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻教員

1. 准教授または助教 1 名
2. (1) 名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻
(2) 名古屋市
3. 観測的宇宙物理学（高エネルギー天文学）
4. 高エネルギー天文学の実験や観測を進める准教授もしくは助教を募集します。同じグループでは国枝教授を中心に X 線遠望鏡の開発と、X 線による活動的銀河、銀河団などの観測的研究を進めています。
5. 決定後なるべく早い時期
7. (1) 履歴書。(2) 研究歴。(3) 論文リスト。(4) 主要論文別刷。(5) 研究計画書。(6) 推薦書 2 通、もしくは意見を聞ける人、2 名の連絡先。
8. 2009 年 4 月 20 日（月）必着
9. (1) 〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻長 杉山 直
TEL 052-789-2468
(2) 問合せ先：國枝秀世
e-mail: kunieda@u.phys.nagoya-u.ac.jp
Tel: 052-789-2920, Fax: 052-789-2919
10. 封書に「高エネルギー天文学人事応募書類在中」と朱書し、簡易書留にて送付すること。応募書類はお返ししません。採用に関する詳細は名古屋大学大学院理学研究科物理教室の、以下の HP を参照ください。 <http://www.phys.nagoya-u.ac.jp/>

研究助成

研究助成(財)宇宙科学振興会若手・シニア研究者の国際学会参加費用の支援

●趣旨

(財)宇宙科学振興会（理事長 武井俊文）では、国際研究集会への参加費用支援を行っております。本支援事業は 35 歳以下の若手研究者および 63 歳以上で定年退職したシニア研究者を対象としております。詳細はホームページ：<http://www.spss.or.jp> をご参照のうゑ、申請書を財団宛お送りください。

●支援対象

宇宙物理学（地上観測を除く）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者（当該年度 4 月 2 日で 35 歳以下）、またはシニアの研究者（4 月 2 日で 63 歳以上で定年退職した者）で、国際研究集会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。

●支援金額：1 件当たり 10～25 万円程度

●申込受付時期

7 月 1 日以降 10 月末までの出発者：5 月 15 日まで
11 月 1 日以降 2 月末までの出発者：9 月 15 日まで
3 月 1 日以降 6 月末までの出発者：1 月 15 日まで

●照会先

(財)宇宙科学振興会事務局 <http://www.spss.or.jp>
〒229-8510 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
Tel: 0427-51-1126
e-mail: admin@spss.or.jp

研究助成

平成 21 年度（第 50 回）東レ科学技術賞・研究助成の候補者推薦のお願い

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。

I. 東レ科学技術賞（概要）

1. 候補者の対象……天文学に関する分野で、下記に該当するもの

- (1) 学術上の業績が顕著なもの
- (2) 学術上重要な発見をしたもの
- (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
- (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの

2. 科学技術賞……1件につき、賞状、金メダルおよび賞金 500 万円、2 件前後

3. 候補者推薦件数……天文学会から 2 件以内

II. 東レ科学技術研究助成 (概要)

1. 候補者の対象……天文学に関する分野で、国内の研究機関において自らのアイデアで萌芽の基礎研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者 (原則として推薦時 45 歳以下)

2. 研究助成……総額 1 億 3 千万円、1 件 3 千万円程度まで 10 件程度

3. 候補者推薦件数……天文学会から 2 件以内

III. 天文学会必着日 (I, II とも) ……

平成 21 年 9 月 9 日 (水) 学会締め切り

※推薦書用紙は学会事務所まで (6 月中旬)

※各推薦書用紙は、ホームページからもダウンロードできます (平成 21 年 6 月中旬頃から可)。

URL: <http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

その他

第 17 回衛星設計コンテスト

本コンテストは、全国の大学院、大学および高等専門学校の学生および高等学校の生徒を対象としており、宇宙にかかわる基礎・応用研究を積極化する機会を提供し、併せて我が国の宇宙開発のすそ野の拡大に寄与しようとするものです。学生の自由な発想による小型衛星をはじめとするさまざまな宇宙ミッションのコンセプト、アイデア、設計構想等を全国から募集し、審査のうえ優秀な作品を寄せたグループ〔または個人〕を表彰します。

本コンテストは、衛星開発の専門家による教育の場でもあります。この観点から、学生の衛星設計への挑戦的な応募に対しては適切な指導を行い、再挑戦も期待しています。

主催：日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会、宇宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本宇宙フォーラム

後援：文部科学省、総務省

応募方法：応募区分「設計の部」、「アイデアの部」および「ジュニアの部」設計条件および応募方法等の詳細に関しましては、日本宇宙フォーラムのコンテストホームページ (<http://www.jsforum.or.jp/event/contest/index.html>) でご確認下さい。

「設計の部」では衛星設計の確実さを、「アイデアの部」では提案するミッションの独創性・有用性を競います。「ジュニアの部」は自由な発想で宇宙に活用できそうなアイデアに富んだ衛星を提案して下さい。詳細な設計は必要ありません。

応募資格：「設計の部」、「アイデアの部」は大学院、大学高等専門学校および高等学校等の学生のグループ〔または個人〕、「ジュニアの部」は高校生のグループ〔個人参加も可能〕を対象とします (グループの場合は指導教官を含んでも構いません。また、異なる学校等の学生からなる合同チームでも構いません)。ただし、1 グループは 10 名以内と制限させていただきます。

応募作品は、過去に応募し、一次審査 (書類審査) で落選した作品であっても、指導等を加味し再度検討を重ねて改良したものについては、新たな応募として認めます。

スケジュール:

参加登録受付：平成 21 年 4 月 1 日 (水)～5 月 29 日 (金)

作品応募受付：平成 21 年 5 月 11 日 (月)～7 月 15 日 (水)

第 1 次審査結果通知：平成 21 年 8 月下旬

最終審査会：平成 21 年 11 月 1 日 (日)

最終審査会会場：一橋記念講堂 (東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号)

審査：第 1 次審査 書類審査により 10～15 件程度を選定

最終審査 発表会形式の審査会にて第 1 次審査合格者の中から、設計大賞・アイデア大賞・ジュニア賞および主催学会等からの賞・審査員特別賞を選定する。

コンテスト参加登録料：3,000 円

(参加登録料は参加をご辞退された場合でもお返しできませんのであらかじめご了承下さい。)

参加ご希望の方は、募集要領および参加登録様式をホームページからダウンロードいただくか、下記申込先に電話か電子メール等でご請求下さい。

申込先: 〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1
新大手町ビル7階
(財)日本宇宙フォーラム 衛星設計コンテ
スト事務局 (担当: 武石)
電話 03-5200-1301/FAX: 03-5200-1420/
E-mail: satcon17@jsforum.or.jp
Web: [http://www.jsforum.or.jp/event/
contest/index.html](http://www.jsforum.or.jp/event/contest/index.html)

会務案内

【理事会議事録】

日時: 2009年1月10日(土) 11:00-16:30

場所: 国立天文台三鷹南研究棟1階大会議室

出席者: 國枝, 渡邊, 竹田, 高田, 田代, 田村, 堂谷,
本間, 半田, 小川, 藤沢, 小鷲, 藤本 (以上
13名)

有効表決状提出者: 柴田, 児玉 (以上2名)

欠席者: なし

ほかに旧理事として, 土佐, 柴橋, 花岡, 北本,
中本, 福田の各氏が出席した。また, 東條事務長が出席した。

新理事になってからの初めての顔合わせなので, ま
ず各出席者の簡単な自己紹介があった。そして議事に
先立って議長と署名人の確認がなされた。

議長: 國枝秀世

署名人: 高田唯史, 竹田洋一

報告

1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて高田庶務理事より前回(2008年
9月11日)の理事会議事録が報告され, 原案どおり
承認された。

2. 宇宙基本法に関する要望書

2008年8月の宇宙基本法施行に伴う内閣府宇宙
開発戦略本部による宇宙開発利用基本計画策定開始
の動きはわが国の天文学の研究教育に多大な影響を
及ぼしかねない。この状況に鑑み, 「天文宇宙科学の
学問的意義の正しい理解と自由な開かれた体制のも
とで, この宇宙基本法の精神を具現されたい」旨の
天文学会からの要望書を宇宙開発戦略本部長(内閣
総理大臣)宛に提出したことの説明が, 資料2に基
づき國枝理事長からなされた。

3. 世界天文年展示について

百周年を迎えた天文学会が共催する世界天文年の
展示会(人工衛星や古書などの公開あり)が本年5
月より上野(国立科学博物館)~仙台(仙台市天文

台)~新潟(新潟県立自然科学館)~名古屋(名古屋
市科学館)~大阪(大阪市立科学館)と各地を巡回す
ることが國枝理事長より報告された。

さらに半田教育理事より世界天文年の企画一般に
ついての進行状況の説明があった(商品へのお墨付
きがほしいという依頼が企業から多数来ている, よ
く報道されていて社会的関心は盛り上がっている)。

4. その他

4-1. 今後の年会の準備状況

本年と来年の年会の準備に関する進捗状況が小川
(2009年3月:大阪), 藤沢(2009年9月:山口),
小鷲(2010年3月:広島), 藤本(2010年秋), の各
開催地理事から報告された。さらに半田教育理事より
補足説明があった。(次回の大阪の年会では教育
フォーラムは天文教育のカリキュラム関係, 一般向
けの講演会は世界天文年がらみのものになる)。

4-2. 年会における講演数制限に関する検討について

一人が多く講演を申込みることによってプログラ
ム編成上の問題(チェック作業量の増加に伴う見落
としミスの危険性増大など)が生じていることに鑑
み, 一人の講演申込み件数に上限を設けることを検
討中であることが本間年会理事から報告された。こ
れまでの申込み件数の統計分布などをみて, 会員が
なるべく不便を被らない改革の試案も配付された持
参資料に基づき紹介され, それについてさまざまな
意見の交換があった。これらの意見も考慮したうえ
で, 年会プログラム委員会で再検討される予定。

4-3. 指定管理者制度に関する共同声明について

天文学会が各天文関係の団体と連名で行政機関に
提出した「指定管理者制度に関する共同声明」は積
極的に声明の宣伝をするべきであると前回の理事会
でも指摘されたが, 2008年12月19日(金)に記者
会見も行的新聞でも報道された旨の報告が土佐前理
事長からなされた。

4-4. 学会名簿のあり方について

半田教育理事から, 先日配布された天文学会員名
簿について, 個人情報保護の観点から設けられた新
たな方針の結果, 空白が異常に目につく内容になっ
てしまったことについて, 研究者の研究機関は個人
情報にあたらぬので掲載すべきではないかなどの
疑問が提出され, これまでのいきさつや名簿の必要
性などの観点からさまざまな意見が出された。何ら
かの対策が必要であることについては見解は一致し
ているが, 具体的にいかに進めるかについてはさら
に引き続き検討が必要であるので庶務理事を中心に
対応していく。

4-5. PASJ のレフェリー選定について

PASJ に投稿した際に編集委員から「レフェリー候補のリストを外国人の中から選んで出すように」と著者への要求があったという事例について、これは不見識ではないかと半田教育理事から疑問の表明があり、堂谷 PASJ 理事から現状のシステムの説明がなされた。理事会で議論するよりもむしろ PASJ 編集委員会で対処されるべき事案なので、委員会に直接質問状を出してもらうことになった。

前理事会からの引き継ぎ事項

1. 東アジアの天文学会間の協力について

世界天文年を機縁として、日本、中国、韓国、台湾の天文学会が協力して合同企画を開催する話が進んでいるが、中身の乏しい協力はあまり意味がないこともあり、研究者の多いサイエンス分野の合同ワークショップを催すなどの具体的な取り組みから考えていきたいという方向性が國枝理事長から説明された。

2. 天文用語集の改訂について

学術振興会から出版されている天文用語集（対訳表）は記述が古く不適切な点も少なからず見受けられるので改訂を求める声が評議員会においても上がっている。高田庶務理事からこの経緯の説明があった。

今さら改めて書物版を改訂する必要性はないのではというものから、教科書に用いる語句はこの用語集に準拠しないといけないことになっているので重要だとの指摘まで、意見の交換があった。

3. 会員の休会制度の制定について

会員が病気療養などの理由で学会活動ができない状態に陥った場合、その期間（2年程度までという上限を設ける）は資格とサービスを一時的に停止して会費の納入を免じ、復帰後にはそのまま会員としての資格を復活継続できるという休会制度（細則を立てて対応）の試案が田村会計理事より資料 3 に基づいて説明された。基本的にこの方針に異論はなかったが、規定の文言についていくつか問題点の指摘があった。

一方、この制度制定を考えるきっかけとなった、病気療養をして会費を2年間納入していなかった一学生会員からの「この療養期間の会費支払いを免除してほしい」との申し出（資料 13）をいかに取り扱うかについては、「基本的に過去にさかのぼっての適用はすべきでない」から「学生という事情を考慮して特例として認めてもよいのでは」というものまでさまざまな意見が出された。当面は、まず病気療

養で休学したとの証明書の提出を本人に求め、さらなる処置は実務理事間で検討することになった。

4. 新公益法人への移行について

法改正により平成 20 年 12 月より新たな公益法人制度が施行されたことを受けて、天文学会も今後 5 年以内にこの新公益法人になるかあるいは一般法人になるかいずれかの選択をしなければならない。

高田庶務理事がこの事情を簡単に説明された。税制の優遇という観点からすると公益法人が有利なのであるが、容易なことではなさそうである。（特に内部留保が一定限度を超えることは認められないので、前年度末に会費を徴収する現行の前納システムではこれにひっかかることになりかねず、徴収期日の変更などの具体的な対策が必要になる。）竹田庶務理事と田代会計理事を中心に（渡邊副理事長、高田理事、田村理事が補佐する形で）検討を進めることになった。

5. 引き継ぎ会議議事録について

本理事会に先立つ準備として昨年末の 12 月 20 日に新旧実務理事が集まって引き継ぎ事項に関してインフォーマルに話し合った会合の議事録が資料として配布され、高田庶務理事から簡単に内容の説明がなされた。

議 題

1. 新入会員の承認

高田庶務理事から資料 4 に基づいて新入会員の紹介があり、承認された。併せて正⇒準の移動者と退会者の報告もあった。会員総数は約 3,000 名程度（そのうち正会員は約 1,700 名）ではぼ一定している。

2. 2008 年度事業報告書案

高田庶務理事によって資料 5 に基づいて 2008 年度の事業報告案について説明があった。特に昨年のメインであった天文学会百周年記念事業についてはやや立ち入った解説がなされた。文言の修正についての若干の意見とともに了承された。

3. 2008 年度決算報告書案

田村会計理事より資料 6 に基づいて 2008 年度の事業報告案（一般会計と特別会計）についての説明があり了承された。例年に比べて 2008 年度は収支が約 3 千万円悪化しているが、これは PASJ の半額キャンペーン、春季年会（代々木オリンピックセンター）の会場代、百周年記念事業、補助金の減少、などによるものであり、想定内の範囲である。

4. 2008 年度監査報告

高田庶務理事より資料 7 に基づき 2009 年 1 月 8 日に行われた 2008 年度監査についての報告があり

了承された。「(PASJ 論文賞の選考も兼ねる) 林賞選考委員会の選考委員旅費が林賞の特別会計から支出されているのは適当か」と監事から指摘された点について意見交換があり、本委員会の正目的はあくまで林賞の選考であり PASJ 論文賞は副次業務なので問題ないという意見でほぼまとまった。

5. 2009 年春季総会議題等

高田庶務理事より資料 8 に基づいて春季年会における総会の議題案の説明があり了承された(議題名に関する本質的ではない若干の修正のみ)。

6. 民間の賞への推薦方法

民間の賞(東レ賞, 井上賞, 山田賞, 朝日賞など)の公募に天文学会からの推薦が少なく受賞者もまれであるので, もっときちんと候補者を会として推薦するようにして盛り上げてほしい, という指摘が総会で出されたのを受け, それに応ずる形で天文学会として推薦者を選ぶ手続きが立案されたので, 資料 9 に基づいて高田庶務理事から報告され了承された。各賞の候補者は天文月報等を通して一般から募るのは従来どおりであるが, 林賞の候補として推薦された方々のリストも状況に応じて参考としつつ推薦者を決定する(年 2 二回程度, 理事長と副理事長が中心になって)。

7. 日本天文学会ロゴマークの使用基準について

天文学会百周年を記念して一般公募していたロゴマークが決定したのでその使用に当たっての基準(色, 使用資格, 使用許可の申請法, 禁止事項等)のまとめが資料 10 に基づき北本前会計理事によって紹介され, 了承された。併せてこのマークで決定に至った選考過程と理由についても簡単に述べられた。入れる文字が英語のものと日本語のもの 2 種類を作っており英語版については商標登録済みである。

8. 筑波大学計算科学研究センターからの要請(依頼)について

平成 22 年度からの枠組み変更で, 大学付置センターは共同利用・共同研究の拠点として認定されねばならなくなった状況を受け, 筑波大学計算科学研究センターから, 『『天文学に深く関わる当センターを拠点として認定されたい』旨の公式要請文書を天文学会の方からも提出してほしい』との依頼について, 資料 11 に基づき高田庶務理事から説明があり特に問題はないのことで了承された。同種の依頼が今後も他機関から出てくるかもしれない。

9. PASJ 編集顧問会議の報告について(資料 12)

昨年 11 月 1 日の PASJ 編集顧問会議で話し合われたことの内容のまとめが資料 12 に基づいて堂谷

PASJ 理事から報告された。

- (1) PASJ 発展の方向性(紙版主体から電子版主体へ徐々に移行, 電子版は迅速に公開するようにして論文順序も受理順に),
- (2) PASJ の将来像の組織的な検討の必要性(国際化・電子化の世界的潮流の中で, たとえば外国人の編集委員を加えるなど国際的に開かれたジャーナルにするための努力),
- (3) レビュー論文への力の注入(これまでめったに出ていなかったレビュー論文を, 林賞の受賞者に依頼することにして, ある程度定期的な掲載を目指す),
- (4) 科研費の増加への努力(科研費の PASJ への補助金が年々減少して赤字につながっているので学術振興会に赴くなどの運動の必要性), などである。

これらの基本的な精神については特に異論はなかった。しかし今回理事会の場で方向性を話し合ってもらいたいともちかけられた「(2)」については, これに関する議論を行うのは本来編集顧問会議の方にほかならないので, もう一度(メンバーが今回一新する)顧問会議に差し戻して具体的な議論と立案を行ってもらうことになった。また「(4)」については天文学会だけががんばっても効果は上がらないので, 他学会と協力して一緒に運動していく必要があるとの指摘があった。

10. その他

(引き継ぎ事項の追加)

北本前会計理事から, 公益法人への移行(上記引き継ぎ事項の 4.) のこともあり, 会費の徴収を現行の前年度の 12 月 10 日から当年度の 1 月末に変更する, 会費の未納者に対して課していた延滞金は実情は手数料とでも呼ぶべきで名称が不適切なので変更する, などの細則の変更を検討するべきであろうとのコメントがあった。

(今後の理事会)

3 月 25 日(水) 春季年会(大阪府立大) 第二日目の
昼休み時

6 月 13 日(土) (予定)

2009 年 2 月 19 日

議長 國枝 秀世 ㊟
署名人 高田 唯史 ㊟
署名人 竹田 洋一 ㊟

【評議員会議事録】

日 時：2009年1月31日（土） 13:00-16:50
 場 所：東北大学東京分室（サピアタワービルディング 10F：東京駅八重洲北口）
 出席者：井上，岡村，海部，柴田，須藤，中川，永田，宮川，家，坂田，佐藤，杉山，谷口，筒井，望月，山田（以上16名）
 有効書面表決状提出者：郷田，渡部，池内，観山（以上4名）

他に國枝理事長，渡邊副理事長，竹田・高田庶務理事，田代・田村会計理事，相馬天体発見賞選考委員長，水野（前）研究奨励賞選考委員長，東條事務長が出席した。

開会に先立って本年度から就任された國枝新理事長から挨拶があり，新任副理事長の紹介とともに，これから天文学会が取り組むべき諸課題（理事長公選の検討，各種委員会の整理，会員増加へ向けた対策，公益法人へ移行するかどうかの選択，天文教育普及のための広報・Webページの改善，百周年に引き続く世界天文年の事業）についての言及があった。また議長に家氏，署名人に中川，筒井の両氏が選出された。

報 告

1. 前回議事録の確認
 前回（2008年9月12日）の評議員の議事録（資料1）についての確認がなされた。
2. 宇宙基本法に関する要望書の提出
 昨年からの，宇宙基本法施行に伴う宇宙開発利用基本計画策定開始は，わが国の天文学の研究教育に多大な影響を及ぼしかねないので，「天文宇宙科学の学問的意義の正しい理解と自由な開かれた体制を希望する」旨の天文学会からの要望書（資料2）を，宇宙開発戦略本部長（内閣総理大臣）宛に提出したことの説明が，國枝理事長からなされた。
3. 指定管理者制度に関する共同声明
 以前から問題になっている，指定管理者制度についての共同声明を天文学会が各天文関係の団体と連名で行政機関に提出し，昨年末に記者会見も行って新聞でも報道された旨の報告が高田庶務理事からあった。
4. 2008年度早川基金採択一覧表
 2008年度早川基金の採択状況が，高田庶務理事より資料3に基づき報告された。第62回募集から交通費のみならず滞在費・参加登録料も支出できるようになり，以前に比べて間口が広がってきている。

5. 2009年春季年会について

2009年の春季年会は大阪府立大学で3月24-27日の4日間の会期で開催されるが，その準備は小川開催地理事をはじめとする現地の皆さんの努力で，特に問題もなく着々と進んでいることが高田庶務理事より報告された。

6. その他

6-1. 大学院生の海外渡航援助状況

大学院生を対象とした海外学術研究援助に関する調査（アンケート）が行われ，その結果が当日配付資料に基づき永田氏より報告された。院生が海外研究会参加の際にいかにして費用を工面しているか，財団の援助に対していかなる希望をもっているか，などの状況がうかがいしれた。

6-2. 世界天文年について

本年が世界天文年となったことにちなみ，いよいよ活動が始まったことの報告が海部氏よりなされた。日本ではぐんま天文台でのオープニングセレモニー，世界的にはパリでの opening event で幕開け。国内ではこれから巡回展が各地を巡り，夏の日食もハイライトとなる。国際的には 100 hours of astronomy などへの参加も。天文関係の本も多く出版され，商品へのロゴ使用申込みも企業から多数きており，社会的にも盛り上がってきている。さらに，昨秋の韓国済州島での会議において東アジア4カ国（日本，韓国，中国，台湾）の代表が合意した内容が，当日配布された資料に基づき説明された。互いに連携しての世界天文年の推進，三つのプロジェクト（Stars of Asia, Asian-Pacific Astronomy Camp, Milky Way Week），4カ国の天文学会の継続的協力活動の開始，など。

6-3. アストロバイオロジーワークショップの後援について

宇宙と生命の関係を探るアストロバイオロジーは，天文学・地球科学・化学・生物学・地質学などさまざまな学問が関わることに鑑み，いろんな分野の研究者の相互理解を深めるための第一回ワークショップが，昨年末に開かれて好評だった。この成功を受け，本年秋にも第二回目の開催が見込まれているが，「これを広く周知させて多くの研究者に参加してもらおうべく，天文学会にも後援してもらいたい」とワークショップ世話人の大石雅寿さんから依頼がきており，（財的支援を求めるものではないので）認める方向であることが高田庶務理事より当日配布資料に基づき報告された。この分野は特にこれからは重要だろうけれども日本ではたいへん立ち遅れているので積極的に推進すべきだ，天文学会もこ

の学際的分野に取り組むべく組織的な見直しも必要かもしれない（このたびの日本地球惑星科学連合の立ち上げもからんで）、などの意見も出された。

議 題

1. 2008 年度各賞受賞者の決定

(1) 天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞

相馬天体発見賞選考委員長より資料 4-1 に基づき、選考委員会において下記のように天体発見賞候補 6 氏（グループ）[19 件]、天体発見功労賞候補 9 氏（グループ）[11 件]、天文功労賞（長期的な業績）候補 1 氏、を推薦することに決定したとの報告があり、すべてについて承認された。

天体発見賞：市村義美（2 件）、板垣公一（9 件）、藤田康英（1 件）、金田 宏（1 件）、西山浩一・梶島富士夫（5 件）、小林隆男（1 件）、の各氏

天体発見功労賞：板垣公一（2 件）、山本 稔（1 件）、中村祐二（1 件）、長谷田勝美（2 件）、工藤哲生（1 件）、西村栄男（1 件）、櫻井幸夫（1 件）、板垣公一・金田 宏（1 件）、広瀬洋治（1 件）、の各氏

天文功労賞（長期的な業績）：北尾浩一氏

なお、今回は天文功労賞（短期的な業績）は受賞者の選出がなかった。

アマチュアの方々の観測技術の向上もあってか、受賞対象の発見事例が近年増加する傾向が見られる。これが将来的に取り仕切れないまでに著しく増大しはしないか、常連の受賞者の方々も少なくなき、また総会での授与式が紋切り型の形式的なものになりがちである、などの懸念の声も出て、たとえば新しい方への授賞を特に奨励したり、受賞者へのもっと心こもった激励の仕方を考えるなり、この種の賞のあり方そのものの再検討の議論を始めてはどうか、との意見が選考委員会に対して向けられた。

(2) 研究奨励賞

水野（前）研究奨励賞選考委員長より資料 4-2 に基づき、昨年末に開かれた研究奨励賞選考委員会において 8 名の被推薦者の中から 3 名を授賞候補者として推薦する旨の報告がなされた。評議員間でさらなる議論を重ねた結果、今回は井口 聖と稲田直久の 2 名に対して研究奨励賞を授賞することとなった。

研究奨励賞：井口 聖、稲田直久、の両氏。

(3) 林 忠四郎賞・欧文研究報告論文賞

林 忠四郎賞選考委員長の代理として、井上氏より資料 4-3 に基づいて林賞選考委員会において 3 名の候補者（新規の被推薦者はなかったので前年度から引き

継いだ候補者リストで議論）の中から下記の 1 名、欧文研究報告論文賞については引用件数の多い過去 5 年の論文の中から下記の 2 編、を推薦する旨の報告があった。評議員間の意見交換を経たうえで、これらはいずれも承認された。

林 忠四郎賞：杉山 直氏

欧文研究報告論文賞：“Atlas and Catalog of Dark Clouds Based on Digitized Sky Survey I,” Dobashi K., et al., 2005, PASJ 57 (特集号), S1-S386. および “Pre-Processing of Galaxies before Entering a Cluster,” Fujita Y., 2004, PASJ 56, 29-43.

欧文報告論文賞は過去 5 年以内の論文で議論されていることに関して、分野によっては成果が世に知られるのに時間がかかる場合があるので、もっと以前のもので対象にできないかとの意見が出された。論文賞内規ではこれは単に目安の意味で「原則として」過去 5 年以内としているだけであって、それ以前の出版でも特に秀逸な論文に対しては候補としての推薦も構わないし授賞対象ともなりうるものであることが確認された。

また、評議員会に先立って各賞の授賞候補者の情報がメールで出席予定者に送付されていることについて、「機密保持の観点から不適切である」との意見があった。参加できない評議員の有効表決状提出の必要性から議題の内容を前もって把握してもらうために資料の前送付はやむをえないので、次回からは郵送で行うように努力することになった。また、これに関して、選考委員会の日程を早めるなど、時間的に余裕をもった運営の必要性も指摘された。

2. 2008 年度事業報告書案

高田庶務理事より資料 5 に基づいて 2008 年度事業報告書案について説明があり承認された。補足として岡村創立 100 周年記念出版事業編集委員長からシリーズ「現代の天文学」について、残っている未出版の巻の進捗状況、また昨今の紙代の値上がりもあって 100 円程度の定価の値上げのやむなきに至ったこと、全巻出版完結のあかつきには記念セールを見込んでイベント（講演会）開催を考えていること、などが報告された。

また昨年末配布された学会名簿について個人情報保護の観点から設けられた新たな方針の結果（全会員約 3,000 名に宛てた公開可否の問い合わせに対してたった 1/3 しか回答がなく、また回答者についても半分以上は自宅の住所電話番号公開は不肯の意向）、空白が異常に目に付く極めて有用性の低いものになってしまったことについて意見の交換があった。会員も今回のことで事態の深刻さを初めて認識

して次回からはきちんと対処するだろうから、その意味では今回の名簿は有意義だった、との前向きな指摘もあった。

その他、これからは天文学会以外の賞への候補者を天文学会から積極的に推薦するように努めること、などが話題に上った。

3. 2008 年度決算報告書案

田村会計理事より資料 6 に基づいて 2008 年度決算報告書案に関して一般会計、特別会計それぞれについて説明があり承認された。2008 年度は例年に比べて収支が悪化しているが、これは PASJ の半額キャンペーン、春季年会（代々木オリンピックセンター）の会場代、百周年記念事業、補助金の減少、などによるものであり、想定内の範囲である。

4. 2008 年度監査報告

高田庶務理事より資料 7 に基づき、2009 年 1 月 8 日に行われた 2008 年度監査についての報告があり了承された。

5. 2009 年春季総会議題等

高田庶務理事より資料 8 に基づいて、春季年会における総会の議題・報告案の説明があり了承された（議題名の若干の修正のみ）。

6. 「日本天文学会 100 年史編纂委員会に関する内規」の廃止

高田庶務理事より、天文学会百周年の記念事業として行われた、日本天文学会 100 年史の編纂の仕事が昨年の出版完了とともに終結したことを受け、本委員会に関する内規も廃止することが提案され、了承された。

7. 会費未納による除名予定者名簿

高田庶務理事より会費未納による 35 名の除名予定者リスト（資料 9）が示され、承認された。ただし早急に入金手続きがなされた場合は、本リストからは外されて会員資格は継続されるので、この中で個人的に知っていて連絡のつく人に対してはなるべく入金を働きかけようということになった。

8. PASJ 編集顧問会議の報告と検討のお願い

昨年 11 月に PASJ 編集顧問会議で PASJ の将来について話し合われたことの内容のまとめが資料 10 に基づいて高田庶務理事より報告された。

(1) 出版形態の将来的方向性（紙版主体から電子版主体への移行）、(2) PASJ の組織的将来像（国際化の必要性）、(3) レビュー論文への力の注入（林賞の受賞者への依頼）、(4) 補助金増加への努力、など。これらの点については、理事会でも議論された結果、特に (2) については新年度から新メンバーに刷新された顧問会議にもう一度差し戻して具体案を再度提示してもらうことになっているが、この報告内容の一般的な方

向性については異論はなく承認された。わが国で学術誌の出版に対する補助金が減少しているのは、諸外国と比べても逆の傾向で時代の流れに反するするものであり、長い目で見たときに大きな問題になりかねないとの指摘もあった。

9. その他

9-1. 公益法人について

海部氏から天文学会は新公益法人への移行はどうするのかとの質問があり、國枝理事長から「他の学会の動向もにらみつつ検討中であって、どうするかはここ数年のうちに決める」との回答がなされた。これを受けて、学術会議もこの問題にはいろいろ情報をもっている（いろいろ細かいことができなくなる制約が出たりして必ずしも公益法人がいいとも言えない）是非学術会議とコンタクトをとって動くべきであろう、との助言がなされた。

9-2. 宇宙基本法について

天文学会から要望書を提出した宇宙基本法に関して、井上氏からこの体制ワーキンググループの活動（大学との連携、公開の原則、自立的な研究の推進）について紹介があった。また同じくメンバーである佐藤氏からも、この WG の情報公開の程度や天文学会からの要望書に対する内部の反応などの様子について補足説明がなされた。

9-3. 学術会議からの報告

海部氏より、学術会議では各委員会でそれぞれの分野の展望のとりまとめを行っていること、大型計画は現在ストップしていて先が見えづらい状況であること、第 4 期の計画に対して意見があれば今年一杯までに申し出てほしいこと、など現状報告があった。

9-4. IAU 新メンバー申請者について

海部氏から、IAU の新規メンバーへの加入希望者は今度から Web サイトより自己申告で申請することになって、日本からは従来（大体～20 名程度だった）を大きく上回る 57 名の申請があったことが報告された。これでわが国の IAU メンバーは約 600 名になり、600 台半ばの英国やフランスのレベルに届くのもそう遠くはない数になった。

9-5. 今後の評議員会について

次回の評議員会は春季年会（大阪府立大）会期中の 3 月 26 日（木）に決まっているが、次々回は 6 月 27 日（土）（場所は未定）に行われることになった。

2009 年 2 月 12 日

議長 家 正則 ㊟
署名人 中川 貴雄 ㊟
署名人 筒井 亮 ㊟

2008 年度日本天文学会各賞について

2008 年度日本天文学会各賞は、2009 年 1 月 31 日の評議員会で次のように決定しましたのでご報告します。

◎天体発見賞（6 氏（グループ）19 件）

- 市村義美（いちむら よしみ）氏：超新星 2008A の発見，超新星 2008hi の発見
- 板垣公一（いたがき こういち）氏：超新星 2008B の発見，超新星 2008R の発見，超新星 2008dv の発見，新星わし座 V1721 の発見，超新星 2008fv の発見，超新星 2008gz の発見，超新星 2008hz の発見，超新星 2008ij の発見，超新星 2008in の発見
- 藤田康英（ふじた やすひで）氏：超新星 2008L の発見
- 金田 宏（かねだ ひろし）氏：新星 はくちょう座 V2468 の発見
- 西山浩一（にしやま こういち）・椋島富士夫（かばしま ふじお）氏：新星 はくちょう座 V2491 の発見，新星 いて座 V5579 の発見，新星へびつかい座 V2670 の発見，新星へびつかい座 V2671 の発見，新星さそり座 V1309 の発見
- 小林隆男（こばやし たかお）氏：超新星 2008ip の発見

◎天体発見功労賞（9 氏（グループ）11 件）

- 板垣公一（いたがき こういち）氏：超新星 2008ax の独立発見，超新星 2008bt の独立発見
- 山本 稔（やまもと みのる）氏：新星 はくちょう座 V2468 の独立発見
- 中村祐二（なかむら ゆうじ）氏：新星 はくちょう座 V2468 の独立発見
- 長谷田勝美（はせだ かつみ）氏：新星 はくちょう座 V2468 の独立発見，新星へびつかい座 V2670 の独立発見
- 工藤哲生（くどう てつお）氏：新星 はくちょう座 V2468 の独立発見
- 西村栄男（にしむら ひでお）氏：新星へびつかい座 V2670 の独立発見
- 櫻井幸夫（さくらい ゆきお）氏：新星 さそり座 V1309 の独立発見
- 板垣公一（いたがき こういち）・金田 宏（かねだ ひろし）氏：彗星 D/1896 R2 の再発見
- 広瀬洋治（ひろせ ようじ）氏：超新星 2008ie の独立発見

◎天文功労賞（1 氏 1 件）

（長期的な業績）

- 北尾浩一（きたお こういち）氏：天文民俗学における活躍

（短期的な業績）なし

◎研究奨励賞（2 氏 2 件）

- 井口 聖（いぐち さとる）氏：国立天文台・准教授
研究テーマ：「アルマ建設におけるアタカマコンパクトアレイのシステム設計・開発」
- 稲田直久（いなだ なおひさ）氏：理化学研究所・特別研究員
研究テーマ：「可視光広域サーベイデータを用いた重力レンズクェーサーの探査」

◎林 忠四郎賞（1 氏 1 件）

- 杉山 直（すぎやま なおし）氏：名古屋大学・教授
研究の表題：「宇宙マイクロ波背景放射に関する理論的研究」

◎欧文研究報告論文賞（2 編）

- 論文：“Pre-Processing of Galaxies before Entering a Cluster,” PASJ, Vol. 56 (2004) pp. 29-43
著者：Yutaka FUJITA
- 論文：“Atlas and Catalog of Dark Clouds Based on Digitized Sky Survey I,” PASJ, Vol. 57 (2005) pp. S1-S386
著者：Kazuhito DOBASHI, Hayato UEHARA, Ryo KANDORI, Tohko SAKURAI, Masahiro KAIKEN, Tomofumi UMEMOTO, and Fumio SATO

(社)日本天文学会へ2008年9月10日～2009年1月10日までの間に入会された方、退会された方をお知らせいたします。

正会員入会 (49名)

ズブコ・ナタリヤ 北海道大・大学院工 (在学)
 小堀しづ 埼玉県所沢市在住
 堀江光典 東北大学大・大学院理 (在学)
 伊藤大晃 名古屋大・大学院理 (在学)
 田中 圭 東京工業大・大学院理 (在学)
 石川真木 総研大・大学院理 (在学)/JAXA
 下家佐知子 福井県あわら市在住
 渡辺謙仁 大阪教育大・大学院教育 (在学)
 幸山常仁 名古屋大・大学院理 (在学)
 平野耕一 東京理科大・大学院理 (在学)
 加藤恵理 大阪大・大学院理 (在学)
 新田冬夢 東邦大・理 (在学/筑波大大学院進学予定)
 小坂 文 東邦大・理 (在学/東京大大学院進学予定)
 田村さやか 総研大・大学院理 (在学)
 青木貴弘 早稲田大・大学院理工 (在学)
 槇坪宏展 東京大・大学院理 (在学)
 押野翔一 総研大・大学院理 (在学)
 平野照幸 東京大・大学院理 (在学)
 藤井友香 東京大・大学院理 (在学)
 伊藤紘子 総研大・大学院理 (在学)/国立天文台
 加藤則行 神戸大・大学院理 (在学)
 今井章人 早稲田大・大学院理 (在学)
 欠畑賢之 東京大・大学院理工 (在学)

守屋 堯 東京大・理 (在学/大学院進学予定)
 大濱晶生 名古屋大・大学院理 (在学)
 國實真人 大阪府立大・理 (在学/大学院進学予定)
 西村 淳 大阪府立大・理 (在学/大学院進学予定)
 松本浩平 大阪府立大・理 (在学/大学院進学予定)
 福江 慧 東京大・大学院理 (在学)
 北村美佐絵 東北大・大学院理 (在学)
 西岡祐介 宮崎大・工 (在学/大学院進学予定)
 渡邊瑛里 山形大・大学院理工 (在学)
 澁谷隆俊 総研大 (在学)/国立天文台
 牛尾雅佳 東京大・大学院理 (在学)/JAXA
 野口和久 愛媛大・大学院理工 (在学)
 齋藤悦子 名古屋大・大学院環境 (在学)
 中岡正奈 神戸大・大学院理 (在学)
 大澤 健 山形大・大学院理工 (在学)
 箕輪昌裕 大阪府立大・理 (在学/大学院進学予定)
 丸山美代子 日本大・大学院理 (在学)
 寺田 宏 国立天文台・ハワイ
 木村誠二 電子通信大・大学院電子工
 木坂将大 広島大・大学院理 (在学)
 成川達也 広島大・大学院理 (在学)
 神頭知美 埼玉大・大学院理工 (在学)
 上田航平 東京大・理 (在学/大学院進学予定)
 宮崎 恵 和歌山大 (在学/大学院進学予定)
 藤野雅子 札幌筋科学研究所
 堀井 俊 総研大・大学院理 (在学)

準会員入会 (10名)

植本佳樹 (株)新洲 環境部
 松本佳也 広島こども文化科学館
 今橋正雄 (財)焼津市振興公社ディスカバリーパーク焼津
 奥村 暁 東京大・大学院理
 山村秀人 滋賀県立愛知高等学校

高田 拓 JAXA・宇宙科学研究本部
 五十嵐 創 東京大・理 (在学/大学院進学予定)
 杉原 寛 東京都町田市在住
 岡村昌彦 山口県美祢市在住
 霞 良隆 (株)スタッフサービス

移籍会員〔準→正〕 (5名)

成瀬雅人 東京大・大学院理 (在学)
 中村寿一郎 東京都在住 (アマチュア天体観測小屋所有)

松井 真 鹿児島大・大学院理工 (在学)
 Finny Oktariani 北海道大・大学院理 (在学)
 鈴木裕司 京都大・大学院理 (在学)

移籍会員〔正→準〕 (22名)

北村正利	安武伸俊	太田泰弘	鶴田泰介	久保宏之	渡辺洋一	山口伸行
山田雅子	上田暁俊	永田洋久	鳴海泰典	齋藤修二	米原悦子	伊藤 裕
川畑周作	鷲津文雄	長南 勉	渡辺 堯	上原悠一	岡崎 亘	廣瀬恵子
岡田俊策						

正会員退会 (31名)

船山日斗志	成本拓朗	清水 実	木村俊介	山田健吉	小島正宜	小西健陽
千川道幸	岡田 睦	菅沼正洋	岩松英俊	尾形陽一	山本幹生	安藤浩哉
伊藤 健	尾崎 仁	木内 学	井上裕彦	佐々木俊二	豊田英里	広本健二
柳 哲文	山内雅浩	町田亮介	中村太平	神尾 精	福嶋勇介	佐野 武
彭 之翰	兵藤義明	川田明寛				

準会員退会 (39名)

伊野田 繁	石津太郎	石塚俊久	川瀬 茂	齋田隆之	新谷真人	曾根 惇
多賀治恵	高瀬勝也	田中義人	東辻浩夫	富田憲二	西 恵三	根塚義明
長谷川 敏	村井忠之	山田達雄	小松守雄	恩田正雄	和田豊志	西村 修
林 弘文	野口輝雄	巽 一仁	後藤真理子	杉浦敏郎	白鳥忠俊	貫井 茂
大友 勲	田中洗人	村田敬介	坂東貴政	村山敏之	西山峰雄	竹浦史朗
田辺 朗	楨野 正	森 茂	菅原真一			

賛助会員退会 (1社)

住友重機械工業(株)

訂 正

2009年3月(第102巻第3号)のp238「2008年度計算書類に対する注記」の2.(7)に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

誤) 本年は準会員1名が適用されている。

正) 本年は適用者はいない。

編集委員会より

お詫び

2009年2月(第102巻第2号)の天球儀「書き方のススメ」の記事で、一部不適切と受け取られかねない表現があったことをお詫びいたします。

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード vol98 の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

児玉忠恭(編集長), 浅井 歩, 柏川伸成, 衣笠健三, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 三好 真, 山崎 了, 吉田直紀

平成21年3月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2009年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)